

ガイドブックが誘客のカギ

澤 功（澤の屋旅館主人） ※この記事は日観連機関誌の 2008 年 8 月号に掲載されました。

私が所持しているガイドブックで一番古いのは昭和 39 年、ニューヨークで発行された「一日 5 ドルの日本の旅」(著者 JOHN WILCUCK)という本です。

この年は、東京オリンピックが開催され私が澤の屋旅館に養子に入った年ですが、この本が日本の旅館で澤の屋がガイドブックに載った初めての本だと思われまゝ。澤の屋は1泊2食 1,500 円となつていますが当時、一ドル 360 円ですから 5 ドルは、1,800 円となり、5 ドルで旅ができた時代だったようです。

ガイドブックには載りましたが、その頃は外国のお客さまの宿泊は有りませんでした。

日本のお客さまが減少したため昭和 57 年から外国のお客さまの受け入れを始めました。

そんな時、オランダから日本のガイドブックを作りたいので無料で泊めて欲しいという手紙がきました。出来ませんと断ったのですが、そのライターの方はやって来て、泊まって、宿泊料を払ってくれました。何年かたって急にオランダからのお客さまの予約が入り始めました。ガイドブックが発行されて、そこに澤の屋が掲載されたからだと思ひます。

そんな時、宿泊の外国のお客さまを訪ねてきた日本の人に「澤の屋はロンリープラネットに載っていますよ。これは凄いいことなんです。だから外国のお客さまが多いんですよ」と言われました。そこで初めてロンリープラネット(オーストラリア発行のガイドブック)に澤の屋が掲載されていて、それを見たお客さまが直接に予約をしてくることを知りました。

昭和 60 年頃から当時の国際観光振興会(現在の日本政府観光局、JNTO)から、ガイドブックのライターの取材への協力依頼が入るようになりました。ガイドブックに掲載されることが、いかに誘客に役立つかということを実感していましたので喜んで取材を受けました。

平成 8 年(1996 年)に当時ジャパニーズ・イン・グループの会長をしていた私のところにラフガイドから、今度日本のガイドブックを作るので無料宿泊提供をして欲しいという手紙が送られてきました。ラフガイドのことを知らないで、その手紙を待って JNTO に相談にゆくと「澤さん、ラフガイドブックは世界で有名な FIT のためのガイドブックです。ジャパニーズ・イン・グループにはぴったりのガイドブックです。協力した方がいいですよ」と言われました。

さっそく、グループの会員の人たちに、ガイドブックに掲載されることの重要性を説明して 31 件の無料宿泊の提供を受け、ラフガイドの初版が平成 11 年に発行され多くの会員が掲載されました。その

後、平成 19 年に第 4 版の改定版が作成される時には、日観連に無料宿泊提供の依頼が来て全国の 30 件ほどが協力し多くの日観連会員が掲載されました。ところで、ガイドブックが、どのように作成されるのかを知りたくて JNTO を訪ねました。そこでガイドブックに関係している人達にいろいろな話を聞いてきました。

JNTO ではガイドブック日本版が発行されるまで、いろいろな取材支援をしているそうです。①は経費の一部負担です。ガイドブックを作成する出版元は、日本から離れた国であることが多いので出版のために長い時間と費用が掛かります。そこで交通費や宿泊料の一部負担をすることがあるそうです。②は、情報の提供です。JNTO は膨大な情報を持っていますが、これらを提供して上げるそうです。③は取材先の自治体及び観光団体や宿泊施設などへの協力依頼や紹介状をあげているそうです。

ところで 7 月の終わりにガイドブック作成のために 11 月に 3 日間、無料宿泊提供をしてほしいというメールがアメリカから来ました。

JNTO に問い合わせると、他の宿泊施設からも依頼があり、ロスアンゼルス事務所で調べたところ実態が不明な会社だと連絡が来たそうです。そこで私どもは提供を断りました。

JNTO から無料宿泊提供依頼が来た時は大丈夫ですが、直接に来た時は JNTO に問い合わせることが得策だと思います。